

きょういく さど



平成30年11月2日
第62号
佐渡市教育委員会
学校教育課

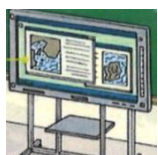
ICT整備計画

学校教育課長 山田 裕之

今年度から、佐渡市教育委員会ではICT機器の導入を始めました。まずは、電子黒板・書画カメラ・デジタル教科書の全校配備を目指します。文部科学省が目標として掲げている水準にはまだ十分とは言えない状況ですが、何とか財源を確保し整備を進めていきたいと考えています。

教育行政をつかさどる者としては、高額の費用をかけて整備するわけですので、是非とも、学校現場で有効に活用していただきたいと願っています。私の考える有効活用のポイントは、次の2点です。

- ① 分かりやすい授業の展開
- ② 授業効率のアップ



①については、改めて説明する必要はないと思います。映像（動画）や音声といった機能を活用することで、これまで以上に児童生徒に分かりやすい授業が実現できると期待しています。

②については、デジタルコンテンツを活用することで、これまで45分～50分かけて行っていた授業時間を5分～10分短縮できるのではないかと思います。例えば、短縮できた時間を復習や習熟の時間に活用できれば、学習内容の定着、ひいては学力向上に結び付くはずで、1単位時間はたかが5分でも、年間の授業時数からすればかなりの時間が生み出せると考えます。

もちろん課題もあると思いますが、肝心なことは、現場の教師同士が情報を共有し、有効な活用法や問題点の解消について学び合っていくことだと思っています。私どもも、現場の声をしっかり聞きながら、必要な機器を導入していきたいと考えています。

メシウマ（他人の不幸で今日も飯がうまい）からの脱却

管理主事 濱田 晴明

「体罰とまではいかないが、**教職員の不適切な言動が複数発生している。**」と報告がありました（教育下越316号）。児童生徒の言動に対し、教職員が感情的になることが原因の一つです。なぜ人は感情的になるのでしょうか。

自分の思い通りに行かない児童生徒の言動を目にした時、脳の中で「不安と苦痛」が支配します。それらを脳が打ち消すために、怒ってしまいます。怒られた児童生徒は、落ち込んだり泣いたりします。実は、**大人の脳は、その姿を見て「快感」を得ます。そして、その姿を見れば見るほど、「快感」が増大し、「習慣」となります。**これをメシウマ（脳科学では「シャーデンフロイド」）と言います。感情的にならないようにしても、**脳は1回覚えた「快感」を再現しようとします。**

では、この脳の**悪しき「習慣」から抜け出す方法**はないのでしょうか。東京大学の池谷祐二教授は、「『**他人からの好評価**』により脳に打ち克てる。」と述べています。他人が自分のことを毎日褒めてくれれば、打ち克てるそうです。しかし、家族は毎日褒めてくれますか？ 職場の上司は・・・。

そこで、ある教育者は、『**子どもの笑顔**』を見た時、「**これは、私が好評価されているのだな。**」と、思うようにすることが重要と言っています。

（うぬぼれではないです。）なお、頑張っている自分に自分自身が褒めることを私は提案します。**自分に優しくできない人は、他人にも優しくできません。脳の仕組みを理解し、実践してみませんか。**

イライラ感が減ることを祈っています。



就学時健康診断と就学支援・指導

教育指導主事 本間 健人

例年、10月～11月に教育委員会では就学事務の一環として、就学予定の子どもたちに対し就学時健康診断を実施しています。これは学齢簿に記載された全ての子どもたちが対象となります。その結果によって治療を勧告したり、就学義務の猶予、免除又は特別支援学級や特別支援学校への就学に関する指導を行う等適切な措置を実施したりしています。

特に、以下の理由で発達検査の得点が低かった場合は、就学に向けた対応が必要となります。

- ①能力が低く、十分に問題に答えられなかった。
- ②難聴、弱視、発声の障害、肢体の不自由などのためにテストの指示が受け取れなかったり、十分に答えられなかったりした。
- ③テスト場面に慣れないために、十分に答えられなかった。

検査結果を正しく判断するためには、検査前後の行動観察、保育園や保護者からの聞き取りが重要になります。さらに詳しく検査する必要があると認められた場合は、保護者に伝えると共に、その検査結果を踏まえて適切な就学相談・就学指導等を行います。保護者の相談内容に「普通学級で大丈夫ですか？」が多くあります。これは、「学校生活だけでなく学習についていけるか」も含まれています。各種検査で、IQ(知能指数)が75以下の場合やADHD等の発達障害が見られる場合は、特別支援教育の対象となりますので、入学に向けより丁寧な支援や指導を行います。

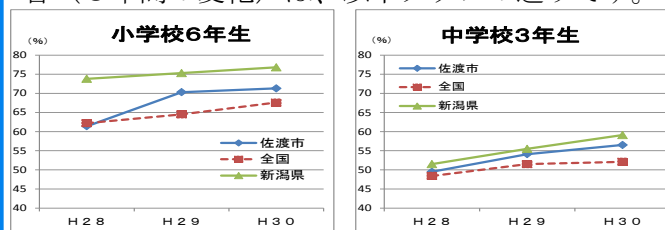


「家庭学習力」の育成

指導主事 後藤 修治

9月5日に行われた家庭学習習慣確立に向けた公開授業研修会には、市内多くの先生方からご参加いただきました。金井中学校の全学級公開授業により、「家庭学習力」の育成を図る具体的な取組、授業づくりについて理解していただけたのではないかと思います。※家庭学習力…生涯学び続けることができるようになるために、自己の学習の状況を振り返り、目標を決めて自律的に取り組み、生活習慣に配慮しながら、主体的かつ継続的に家庭学習に取り組む力

さて、8月に公表されたH30全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙の中に「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか?」という質問事項があります。肯定的な回答をした佐渡市児童生徒の割合(3年間の変化)は、以下グラフの通りです。



小・中共に県平均よりは低いものの、全国平均より高く、向上傾向にあります。このことと合わせて、平日1時間以上家庭学習をしている児童生徒の割合も向上しています。

各校の取組により児童生徒の家庭学習に対する意識は高まってきています。そして、学力の維持・向上に結び付いています。

「家庭学習力」の育成は、家庭学習習慣の確立、学力向上を目的としています。しかし、それだけではなく、これからの予測困難な変化の激しい時代を生き抜く子どもたちに必要な力である「主体的に粘り強く学び続ける力」の育成も目指しています。

「あいつポロシャツ」を作製しました

毎月1日に市内小中学校を訪問し「あいつ」運動をしていると、大きな声であいさつを返してくれる子、おじぎをしてあいさつをしてくれる子、遠くから先にあいさつをしてくれる子など様々な子どもたちと出会うことができます。そして、子どもたちから元気をもらい、清々しい気持ちになります。

さて、今年度学校教育課では、「あいつポロシャツ」を作製しました。現場の先生方からもたくさんご注文をいただきました。来年度も、できるだけ早い時期に注文をとる予定です。「あいつポロシャツ」を着て、みんなであいさつの輪を広げましょう。

